

バイオレットが目を覚ますと、すべてがゆれていました!



地震のいのり



緊急時に何をすればよいかを家族と話しましょう。

ノエル・バラス

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

ゴロゴロという音が鳴りひびき、バイオレットは目が覚めました。最初はかみなりだと思いました。

けれどもその音はどんどん大きくなってきます。寝室のまどがふるえました。

バイオレットはサッと起き上がりました。地震だったのです!

バイオレットと家族は少し前にペルーに引っ越してきました。ここではよく地震が起きることを知っていたので、バイオレットと家族は地震に向けてそなえをし、何をすればよいか練習していまし

た。でも、思っていたよりもはるかにこわくて、体がふるえているのがわかりました。

バイオレットは台所に走って行き、テーブルの下にかくれました。妹と弟もすぐに来ました。お母さんとお父さんも来ました。

「練習したことを思い出して、よくできたね」とお父さんが言いました。「みんな大丈夫かい?」

バイオレットのきょうだいたちはうなずきました。

でもバイオレットはこわくて、目をとじていました。ゆれを気にしないようにはできませんでした。

そのとき、バイオレットはいのることを思い出しました。うでを組んで頭を下げました。「愛する天のお父様、どうかわたしの家族をお守りください」とささやきました。

バイオレットはいのり続けました。だれかがだきしめてくれているような気持ちがしました。いのり終わると、バイオレットは顔を上げました。お母さんとお父さんがうでを組んでいました。弟と妹もそうしていました。みんないのっていたのです! 地面はまだゆれていました。でもバイオレットは心と思いには平安を感じました。

ついに、ゆれが止まりました。バイオレットと家族は、安全のために、もう少しテーブルの下でじっとしていました。

「どんな気分?」とお母さんがバイオレットにたずねました。

「大丈夫よ」とバイオレットは言いました。「最初はほんとうにこわかった。でもおいのりをしたら大丈夫になってきたの。」そしてお母さんにだきつきました。平安を感じられるように天の御父が助けてくださり、うれしく思いました。●

このお話は、ペルーでの出来事です。